

日本共産党100年の歴史と綱領を語る——党創立100周年記念講演

幹部会委員長 志位 和夫

一、どんな困難のもとでも国民を裏切らず、社会進歩の大義を貫く不屈性

戦前——天皇絶対の専制政治の変革に正面から挑む

- ・この挑戦は文字通り命がけの勇気が必要とするものだった
- ・弾圧に抗しての先駆的活動——その社会的影響力は大きなものがあつた
- ・戦後の新しい社会を準備する豊かな営み——宮本顕治・宮本百合子の12年
- ・日本共産党が命がけで掲げた主張は、日本国憲法の中心的内容に実つた

戦後——アメリカの対日支配の打破を戦略的課題にすえる

- ・綱領論争（1957年～61年）の二つの焦点と、61年綱領の確定
- ・沖縄の不屈のたたかい——沖縄人民党と瀬長亀次郎さんが果たした先駆的役割
- ・61年綱領——本土は沖縄の闘いに学び、沖縄は大きな激励を受け取つた
- ・「現実的な安保政策に転換せよ」との党綱領攻撃に答える

二、科学的社会主義を土台にした自己改革の努力

「50年問題」と、自主独立の路線の確立

- ・自主独立の路線はどのようにして形成されていったか
- ・2つの覇権主義による乱暴な干渉——全党の努力と奮闘で打ち破つた

自主独立の路線を土台にした綱領路線の理論的・政治的發展

- ・アメリカ帝国主義論の發展——ソ連覇権主義との生死をかけた闘いのなかで
- ・「議会の多数を得ての革命」の路線は、どのように形成、發展してきたか
- ・世界論の發展——ソ連、中国の覇権主義との闘争、批判をつうじて
- ・野党外交と世界論——發達した資本主義国の左翼・進歩政党との交流の發展を
- ・社会主義・共産主義論——画期的な理論的發展をどうやってかちとつたか
- ・科学的社会主義の「ルネサンス」——覇権主義と闘い続けた全党の奮闘の成果

党の活動と組織のあり方——民主集中制の發展

- ・わが党自身の歴史的経験のなかでつくられ、發展してきたもの
- ・2000年の規約改定——組織と運営の民主主義的な性格をいっそう發展させた
- ・民主集中制に対する攻撃に答える——党大会の開き方を見てほしい

三、国民との共同——統一戦線で政治を変えろという姿勢を貫く

1960年代末〜70年代の躍進——反共キャンペーンと「社公合意」

- ・日本共産党の野党第二党への躍進——危機感をつのらせた支配勢力による反動攻勢
- ・「無党派との共同」という新たな挑戦と、「自民か、非自民か」という新たな反動戦略

1990年代後半の躍進——反共謀略と「二大政党の政権選択論」

- ・党史上最高の峰への躍進——最大・最悪の厳しい逆風とのたたかい
- ・革新懇運動と「一点共闘」の発展——その後の市民と野党の共闘を支える土台に

2010年代中頃の躍進——市民と野党の共闘への挑戦

- ・党躍進を力に、「国民の立場にたった政界の民主的革新」に挑戦
- ・熾烈な野党共闘攻撃・反共攻撃と、大逆流を押し返す全国の大奮闘
- ・党綱領で統一戦線を高く掲げる党として、困難をのりこえこの道を成功させる

反共と反動のくわだての一步、一步が、矛盾を広げ、支配体制を脆く弱いものに

- ・苦しめられていたのは日本共産党だけではない、国民こそ最大の被害者だった
- ・新しい政治を生み出す「夜明け前」——日本共産党躍進でそれを現実のものに

強く大きな日本共産党の建設を——党の歴史的発展段階と展望をどうとらえるか

- ・60年代の初心に立ち、「強く大きな党をつくって選挙に勝つ」という法則的発展を
- ・党の歴史的発展段階と客観的条件——4つの巨大な変化に確信をもって

結び——次の100年に向かって